

故 和久恒夫さんに

# 政府が正六位贈る

政府は8月22日に死去された和久恒夫氏(83)に堀内IIに正六位を贈りました。



故 和久恒夫さん

和久さんは昭和38年から村議会議員を8期務め、同58年から4年間議長に就任。村農業委員会、村社会福祉協議会会長を歴任し堀内児童館長も42年間務めるなど、村政に多大な功績を残されました。

10月7日には、村の福祉事業と学校教育に役立ててほしいと村社会福祉協議会に50万円、堀内小学校に10万円、普代中学校に10万円をそれぞれ寄付しました。

伝達式は10月13日、役場応接室で行われ、息子の喜美男さんが深渡宏村長から叙位の伝達を受けました。

## 東北PTA連絡協議会が

# 鳥小の活動に表彰状

鳥茂渡小学校PTA(高屋敷久人会長)が、このほど優良PTA団体として、東北PTA



鳥茂渡小PTAと児童の皆さん

PTA連絡協議会長から表彰されました。

同小PTAはアルミ缶を集めて車いすを贈る活動や親子読書、合同文集「さわやかとりも」の発行など、PTA活動を通して児童の健全育成に努めた功績が評価されました。

表彰式は9月9日、福島県郡山市で開かれた第38回東北ブロック研究大会の席上で行われました。

## 村社会福祉協議会に カラオケセット贈る 緑区の米田光四郎さん



米田光四郎さん

緑区の米田光四郎さん(71)が8月30日、カラオケセットを村社会福祉協議会(佐藤勲会長)に寄贈しました。

同協議会の下道稔事務局長は「早速、カラオケ愛好会の皆さんが利用しています。これからも有効活用させていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました」と感謝。米田さんは

「自分もカラオケが好きなので、同じカラオケ好きの皆さんに気軽に利用してもらえればうれしいです」と話していました。

カラオケセットは早速9月3日の村合同敬老会で披露され、カラオケ好きの皆さんが気持ちよく自慢ののどを鳴らしていました。

## 合併は地域づくりの手段

### 村で市町村合併を考えるセミナー



真剣な表情で市町村合併についての説明を聞く皆さん

久慈地方振興局主催の「地域づくりと市町村合併を考えるセミナー」が9月21日、自然休養村管理センターで開かれました。関係者、住民ら約40人が参加。セミナーでは今年4月末に県が策定した「自主的な市町村合併の推進に関する構想」について、岩手県企画振興部市町村課の浦上哲朗総括課長が説明しました。

県の枠組み構想は、普代村の場合は久慈広域(久慈市、洋野町、野田村、普代村)が望ましいとし、浦上課長は「今後30年間で県の

人口は18万人、久慈地域では2割減少すると予想されます。さらに少子高齢化が進み地域間の競争が激しくなりま

す」と解説しました。また、普代村が合併する場合と、しない場合をシミュレーションし「普代村はほかの市町村よりも徹底的な財政改革が必要。住民の自立では行政が縮小する分、行政に頼らない、より大きな地域力が必要」と力説しました。

合併の課題としては「市町村合併はゴールではなくスタートで地域づくりのための手段。平成22年3月の合併新法の期限を見据え冷静な判断をし、子どもたちの将来のためにみんなで考えましょう」と締めくくりました。